



まさに切磋琢磨の日々 ミクロの精度が要求される切削加工



おじゃまします

さかき新企業人インタビュー②

竹内博樹プロフィール
株式会社 シンコー工業
代表取締役 竹内博樹氏

昭和42年千葉県生まれ。3歳の時、坂城に転居。上田東高校を卒業後、電子関係の専門学校を経て、県内の電子機器メーカーに就職。プロッターの基盤回路設計等に携わる。会社を引き継いだ今は「仕事が趣味」と休日もひとり工場で過ごすことが多い。

「仕事が趣味」という竹内社長。25歳で父の仕事を引き継ぎ、まったくの異業種から飛び込んだ。それだけに社長業のみならず高度な技術を習得するには大変な努力があったと思われるが、とつとつとした語り口と少ない言葉の端々から伝わってくるのは、15年間でむしゅらに仕事に取り組み体得した経営者としての自信と、職人としての自負心だ。

御社の成り立ちや社長の経歴をお聞かせください。

「弊社は昭和45年に父の竹内真弘が横町で創業しました。義弟と2人で始めた創業当初は、機械は旋盤、ボール盤、フライス盤の計3台だったそうです。まもなく町内の大手メーカーとの取引が始まり、主に油圧制御部品を製造し、好景気の煽りも受けて順調に売り上げを伸ばしていききました。ところが、創業24年目、私が25歳の時に大きな転機が訪れました」

それはどのような？
「まったくの病氣知らずだ

った父がガンで急逝してしまったのです。諏訪にある某メーカーで会社員をしていた私は、これは一大事、と会社を辞めて坂城に戻り、家業を引き継ぐことになりました。私は、それまで電子回路の設計業務をしていましたので、機械加工という仕事はほとんど初めてでした。最初の5年ぐらいは本当に必死でした。それから無我夢中で仕事に取り組み、気がついたらあつという間の15年、という感じですね」

現在の事業内容は？

「御所沢に工場を移した現在は、マシンングセンター、NC旋盤を使用し、中大物板部品と長物円筒部品を主力加工製品として営業しています。社員は社長の私を含めて3名という少数部隊です。当社では一つの製品を作る時は最初から最後まで一人の社員ですべて行います。ですから各自が加工技術を持ち、技術向上に努めています。その上で、皆で意見を持ち寄りながら加工方法を考えたり、治具の構想を練ったりしながら仕

事に取り組んでいます。機械加工は100分の1ミリというミクロ単位での精度が要求されるので、3人それぞれが技術を高め、多様なニーズに応えられるようがんばっているところです」
— 今後の展望をお聞かせください。

「近年は急速な景気の収縮に加え、材料費の高騰や物価高、円高、原油高など経営を取り巻く環境は非常に厳しく、受注額も落ちてきています。このような状況下でもお客様に選ばれる企業になれるよう、日々精進し、研鑽していきたいと思っています」
— ところで毎日お仕事でお忙しいと思いますが、休日はどういうようにお過ごしになっていますか。

「これといった趣味はないんですよ。休みの日は庭の草むしりを手伝ったり、好きな本を読むぐらいでしょうか。もっとも、好きな本とはいえ最新の加工技術に関する専門書が多いので、何だかいつも仕事ばかりしているようで……。つまらない人生ですね(笑)」